第6回
江 戸 川 区 ひ き こ も り 支 援 協 議 会

議　事　録

江戸川区福祉部

第５回江戸川区ひきこもり支援協議会
日　時：令和６年２月９日（金）午前１０時００分から午後１２時００分
場　所：江戸川区グリーンパレス　集会室４０１
出席者：委　員　学識経験者、ひきこもり支援専門家、医療関係者、相談支援関係者
町会自治会関係者、就労支援関係者、居場所事業関係者、
江戸川区福祉部長、ひきこもり経験者
事務局　みんなの就労センター局長、ひきこもり施策係職員
議　案：１　生活に関する調査（ひきこもり）の実施について
２　ひきこもり支援連携会議の実施報告について
３　ひきこもり支援事業の実績について
４　その他
５　閉会

議　事
１　生活に関する調査（ひきこもり）の実施について
・令和 3 年度に行った「ひきこもり実態調査」への未回答世帯に対する再調査の実施について報告。
・前回の調査の未回答世帯 77,307 世帯のうち、課税情報や福祉サービスの受給について再度照会し、対象世帯を抽出。
・今年度実施する調査は 2 つの方法で実施される。
1．郵送による調査　約 47,500 世帯
2．訪問による調査　約　1,750 世帯（40 代単身世帯※を対象に実施）
※令和 3 年度の調査において「ひきこもりの状態にある」との回答が最多の年代であり、世帯内で相談等ができない単身世帯を対象とした。
・訪問調査は 2 月 13 日から実施を予定している。
・訪問調査において不在だった世帯に対しては、不在連絡票も一緒に投かんする。
【委員から出た意見】
・医療機関では、受診される方の中にひきこもりの状態にある方もいるので、そういった方々の情報を提供する機会があればいいと思う。もちろん個人情報のやり取りになるので必ずご本人の同意の上でということになる。
・ひきこもりの状態の定義について、定義に当てはまるかどうかの判断に難しい点がある。実際は世帯内でひきこもりの状態で悩んでいる場合でも、世帯の回答する方が定義に当てはまらないと判断した場合に、必要な支援につながることができなくなってしまう可能性がある。
・定義をもう少し、広げることで今の定義には当てはまらないものの、自身の状況に悩んでいる方が相談しやすくなる。
・今後の調査においては、定義のほかに、悩んでいる人が答えやすくなるような一言が添えてあると、より相談しやすくなると考える。

２　ひきこもり支援連携会議の実施報告について

・ひきこもり支援連携会議は区役所内の各部署が横断的に協力体制をとることが、ひきこもりの状態にある人やその家族が抱える課題の解決には重要となるため、各部署の連携強化を目的として毎年開催されている。

・会議では、令和５年度のひきこもり支援推進事業の実績を報告。各関係部署からは今後の相談支援に関する施策や自殺対策について報告があった。

【委員から出た意見】

・ひきこもり支援連携会議に出席した委員から、オンラインでの開催だったが、対面でも開催してもらえるとより連携強化になると考えている。

３　ひきこもり支援事業の実績について

・令和５年度の相談支援の対応件数等及び、各種イベントの参加者数を報告

・令和５年２月に開設した駄菓子屋居場所よりみち屋の１年間の実績について報告

・教育研究所の不登校対策をしている指導主事に対し、事業の説明を実施。

【委員から出た意見】

・相談支援での関係機関との連携については、自殺対策などにおいては、確実につなげていくために窓口の紹介だけではなく、同行支援というのも重要になってくる。

・今年度支援を終了した世帯の中で、若い世代の方が亡くなった場合には対応を考えていく必要がある。

・駄菓子屋居場所よりみち屋の利用を出席日数として判断するかどうかについては、各校の校長の判断となっている。共育プラザなどに通い、児童・生徒本人が取り組みをしていることについて、出席扱いとする方向性は強まっているように感じる。

・よりみち屋が地域の子どもたちにとって、少し愚痴をこぼせるような居場所となっていることを実感しており、今後も近隣の小中学校と連携していくことが重要だと感じる。

４　その他

【委員からの報告及び意見】

・副会長からひきこもり基本法の制定に向けた動きについて報告

・ひきこもり支援の法制化にあたっては、本人の同意について意思の確認が困難な場合も生じる、そういった際に裁判所が介入できるようにしないと、進んでいかないように思う。

・ひきこもり支援推進事業の周知方法について提案

・ひきこもりの状態にある方の経験談を聴くことができるようなイベントの実施

・新聞広告への周知がいまだ根強いものだと感じる。

・区の広報での特集記事の掲載

・区民の方に将来のまちづくりに関心を持ってもらうために、地道に広報活動をやっていくことが必要。

・無料の地域紙への掲載も大きな効果を持つと考える。

・広報においては、年代ごとに情報収集の媒体が異なることにも注意しながらさらに検討を重ねてほしい。

・ひきこもりの状態にある方が社会参加を行うきっかけとしては、同じ状態にある方の趣味や得意としていることを共有するといったイベントは、興味を持ってもらえると考える。

・相談支援を行う上で、支援を受け続けられることも重要だが、信頼できる人と相談できるといったことも重要なことだ。

・ひきこもりの状態にある方が家庭において、感情を爆発させるといったことがあった際に出る言葉はその人の本音が出てくるので、その内容をしっかりと傾聴し、対応する必要がある。

・感情を爆発させた本人は大抵そのあと感情の落ち込みが生じるので、そういったときに相談できるといった体制があることを本人に伝えておくことも必要。

5　閉会